

卷 頭 言

支那事變勃發して早や今月で滿三ヶ年の歲月は流れ、東亞新秩序建設の聖業は、愈々進展し、愈々成果が結びつゝありと雖も、尙今後長期に亘る建設の努力を確固致さねばならぬ。

東亞新秩序の建設は、單に武力に據つてのみ解決出来るものではない。皇軍の赫赫たる戦勝と相俟つて政治、經濟、外交、思想等凡ゆる綜合せられたる力——即ち國民の總力が強烈に繼續集中せられ、而して是れに反抗する敵方諸國家群の凡ゆる總力よりも、優勢でなければならぬのである。經濟戰、思想戰外交戰に於ては勿論の事、生産力を擴充強化し、交通、通信、運輸網を整備發揚して、是等の總力を強烈に發揮し、以つて、力強く攻撃力を集中強化せねばならぬのである。

今や歐洲の天地は動亂の巷と化し、國際情勢は極めて複雑微妙にして、増々長期戰の様相を呈し、尙一層經濟力伸展の重大性を痛感するのである。

我が滿洲帝國は日本の道義精神に基く東亞新秩序建設の據點であり、礎石である。従つて滿洲帝國の産業開發五ヶ年計畫は、支那事變の進展に住ひ、日本の生産力擴充四ヶ年計畫に照應して修正大擴充を施し、或は又た北邊振興方策を樹てて保境安民を計る等、國家總力の擴充強化に全力を傾注して、日滿一體不可分の固き團結を顯現して居るのである。

生産力の擴充と云ひ、交通、通信、運輸網の整備と云ひ是等は總て技術の動員にして、即ち滿洲の全技術界は擧げて興亞の聖戰に力強く參割して居るのである

聖戰滿三年の紀念日を迎ふるに當り、吾等技術家に課せらたる責務の愈々重大なるを三思し、聖業の完遂に邁進なさねばならぬ。